



「結婚十年(抄訳)」蘇青 著

二玄社『中国現代文学珠玉選[小説3]』より

講師:永井 英美 氏 (立命館孔子学院中国語講師)

読書会

4/17 土

12:30~14:30

立命館孔子学院図書室

中国の小説に興味がある方、
本を読むのが好きな方、
一緒に「読書会」をしませんか。

- 感想を話し合いますので、なるべく事前に作品を読んでご参加ください。
- 前日まで、もしくは当日の開始1時間以上前にお越しください、事務局で作品のコピーをお渡してきます。

●テキスト・作品●

現在、二玄社『中国現代文学珠玉選[小説3]』所収の作品を順に読んでいます。テキスト購入費は参加者負担ですが、現在絶版となっておりますので、事務局で作品のコピーをお渡してきます。図書館や古書をご利用いただいても結構です。

●お申込み方法●

前日までに孔子学院事務局まで、電話・FAXもしくはメールにてご連絡下さい。

●お申込み・お問合せ先●

立命館孔子学院

〒603-857

京都市北区等持院北町56-1

立命館大学 アカデミア立命21内

TEL:075-465-8426

FAX:075-465-8429

Mail:koza@st.ritsume.ac.jp

http://www.ritsume.ac.jp/confucius/



●作品冒頭部分● (第15章 投稿を始める)

しばらくして、賢(シエン)の大学の授業が始まった。彼が学んでいるのは法律で、夜間のみ、毎日午後六時から九時までだった。昼間は中学校の教師をしていたが、給料は安く、そのうえ行ったり来たり慌ただしくして、私と一緒にいる時間は少なかった。林媽(リンマー)は利口な女性で、すぐに上海のことはすべて覚えてしまったので、私はもう家事のことを気にかける必要はなくなり、お金の計算を少しするだけで済むようになった。私は賢にお金を入れてくれとは切り出しにくく、賢もまた実家に言うのを恐れているようだった。人の情としては分かるけれども、彼には一つよくないところがあった。辛いのは自分だけだと思い、他人の辛いことなど気にしないのである。――

●作者紹介●

蘇青(1914 - 1982)

浙江省寧波に生まれる。本名は馮允庄。南京中央大学外文系中退。33年、かねてからの婚約者であった裕福な地主の息子、李欽后と結婚。代表作となった自伝小説『結婚十年』は、フィクションを含むが、李との結婚から離婚にいたる十年間のできごとが彼女自身の体験に基づいてほぼ忠実に綴られている。雑誌『風雨談』の連載として始まった本作品は、1章ごとに周到に用意された「見せ場」によって、連載中から読者の心をつかんだ。44年、散文集『浣錦集』と『結婚十年』を刊行。以後、散文集『濤』、『飲食男女』(45)、『続結婚十年』(47)などを出し、自ら雑誌の出版も手がけた。蘇青は日本軍占領下の上海で、張愛玲と並ぶ売れっ子作家で、女性たちの日常生活を女性の視点から率直に語ったところに、これまでの文学になかった新しさがある。また女性の性に関する大胆な発言や描写は、蘇青が作品を通して伝えようとしたメッセージには今日のジェンダーやセクシュアリティの問題と重なる部分が多く、近年、再び注目を集めている。